

## 血液内科（臨床実習Ⅱ）

### 【目的】

血液疾患患者の診療を通じて、下記の『医学的問題を取り扱うための5つの能力』を向上させることを目的とする。

- \*問題を「発見する」能力
- \*問題を「表現する」能力
- \*問題を「分析する」能力
- \*問題解決策を「立案する」能力
- \*上記のプロセスを「振り返る」能力

上記を通じて、代表的血液疾患を理解するとともに、実際の血液内科で行なう基本手技、診断法、治療法を理解する。

### 【実習の実際】

#### 到達目標

1. 血液疾患患者の立場を配慮しつつ適切な問診を行うことができる。
  2. 血液疾患患者の身体所見を適切に取得することができる。
  3. 個々の患者の問題点を適切に把握することができる。
  4. 個々の患者の問題点を適切に評価し、問題解決策を検討することができる。
  5. プロブレムを適切に判断するために必要な情報と知識を入手することができる。
- \*上記の内容をまとめて、プレゼンテーションすることができる。
6. 易感染性宿主の免疫状態と感染対策について理解する。
  7. 代表的血液疾患の病態について理解する。
  8. 代表的血液疾患の診断方法について理解する。
  9. 代表的血液疾患の治療法と支持療法について理解する。
  10. 各種検査法について理解し、検査結果を適切に判断することができる。

#### 実習内容

- \* 病棟では受け持ち患者を担当する（状況に応じて1-3名）。
- \* 外来では主に新患患者の問診と診察を担当する。
- \* 毎日、診察を行い、診療録を記載する。
- \* 毎日、実習終了時に受け持ち患者のプロブレムリストとそれぞれのプロブレムに対する医学的対応を記載したミニレポートを作成し、それをもとに case-based learning (CBL) の形式でディスカッションを行う。
- \* 診療のために必要な情報を能動的に収集する。
- \* 毎週、血液内科カンファレンスで症例提示を行う。
- \* 毎週、疾患・合併症の診断・治療等をテーマとするレポートを提出する。
- \* 週一回、英文文献・ガイドライン等の事前学習を前提とした対話型のミニレクチャーを実施する。

## 4 週間コースシラバス

- \* 週間スケジュールは以下のとおり。特に記載のない時間帯は原則として病棟実習となる。
- \* 第1・2週の金曜日、第3週月曜日～金曜日に学外実習（東広島医療センター、中四国ブロック血液センター、安佐市民病院、呉医療センター、広島西医療センター）を行う（交通費は自己負担）。

### ● 週間スケジュール（目安）

集合場所：月（原医研1階103号室・朝9時に集合） ※毎週、オリエンテーションを実施（例）

月曜日午前：週間オリエンテーション

午後：外来実習（第1週）・病棟実習（第2,3,4週）

火曜日午前：病棟カンファレンス→プレゼンテーション→フィードバック

午後：病棟ティーチングラウンド・骨髄鏡検勉強会

水曜日午前：外来実習（第1週）・病棟実習

午後：アドバンストレクチャー（第2,4週）・自己血貯血見学（第2週）

木曜日午前：英文文献抄読（第1,4週）・骨髄採取見学

午後：骨髄鏡検勉強会・CBL

金曜日午前：アドバンストレクチャー（第4週）

午後：レポート評価（第4週）

### \* 実習評価基準

評価項目	配点
病棟実習態度	20
カンファレンスでのプレゼンテーション	20
CBLでのプレゼンテーション	20
文献抄読	20
実習レポート	20
合計	100

### \* 担当教員（H.30.1.1以降）

一戸辰夫（教授）、福島伯泰（准教授）、藤井輝久（准教授）、三原圭一郎（講師）、今川潤（助教）、杉原清香（助教）、川瀬孝和（助教）、森岡健彦（助教）、山崎尚也（助教）

#### 【注意事項】

- 1) 患者さんに不快感を与えない服装と態度を心がける。
- 2) 清潔な白衣を着衣する。
- 3) 院内感染対策を遵守する。
- 4) 守秘義務、個人情報の管理には常に留意し、患者さんのプライバシー保護に気を配る。
- 5) 体調不良、欠席、遅刻の場合は必ず届け出ること（病欠の場合、診断書を要する場合あり）。

正当な理由のない欠席については、卒業試験の受験資格を与えないこともある。